

蔵を助手として先づ河北郡高松に於いて約二十町の基線を設け、夫より寶達山頂の高さを測り、其の山頂から地平線の低度を測つて地球半徑の計算に及んだことを記するもので、その測量には文政十年五月九日から八十日を費したが、結果は不満足であつたから、更に山頂の再測量を欲すると附記してある。

チギヨウ 知行 藩臣の平士以上の者は、皆土地によつて祿を受け、その額は石高を以て稱する。知行といふのは是である。前田利家の頃は知行の折紙高と同額の草高を與へ、之が租率は従来の慣習と年々の豊凶により、給人と百姓と相對で協定した。然るに利家の改作法施行以後になつては、檢見を廢して定免法となし、百姓は定免に相當する定納を給人に納附するが、給人から言へば折紙高と同一の草高を有する知行地を受けることなく、平均免の法によつて、草高は異なつてゐても同一の收納額を得る如くに計算せられるやうになつた。與力も亦知行を受ける。↓ヘイキシメン 平均免。

チギヨウシヨ 知行所 加賀藩に於いて、平士以上の受ける知行所の所在は、知行高によつて異なつてゐた。即ち知行九十九石以下は全部加賀、百石以上百九十九石以下は加賀知三分の一・越中知三分の二、二百石以上九百九十九石までは加賀知三分の一・能越知三分の二、千石以上は加賀知四分の一・能越知四分の三の割合であつた。但しこの割合は極めて大體で、多少の出入あるを妨げなかつた。又加増知を與へるには、其の一代限り能越知にて支給し、次代の相續者に至つて普通の割合に復し。役料知も能越で與へられた。

チキ—チセ

チギヨウシヨツケ 知行所附 加賀藩に於いては、給人が知行を與へられる時、領内何れの村に於いて免合何程の草高何程を收納するかを記した藩侯の印物を附與せられた。それが知行所附である。知行所附の終りには『右除山川竹木、如定夫銀・口米可收納者也。』と記される。山川竹木は山手・川役・船役等の小物成として、藩の所得に歸すべきものであるからである。又夫銀・口米の額を記さぬのは、藩内を通じて一定の率がある故である。

チギヨウメシハナサレ 知行被召放 士人にしてその體面を維持し得ず、又は職務上重大の非行があつた時は、知行被召放の處分を受けた。知行被召放は俸祿の全部を剝奪せられ、家屋敷も沒收せられるが、その家財に及ばない。廩米で俸祿を受けてゐた者なる時は、扶持被召放といはれた。知行被召放と改易とは相類するが、前者は藩侯から與へられた判物印物をその親戚に保管せしめるが、後者は全く藩に返上せしめる等の差違があつた。

チクウンボンセン 竺雲梵仙 曹洞宗の僧。能登の人。一庵如清に教を受け、その寂後實相寺の席を嗣ぎ、總持寺に昇つた。
チクエンサツキ 竹園雜記 三冊。編者等不明。前田氏の事蹟に關する雜録で、何の秩序もなく記載されてゐる。
チクケンチヨウサイ 竺原超西 曹洞宗の僧。大島氏。壯歲俗に居るの心なく、遂に總持寺に峨山紹頌を禮して師とした。悟道の後、能登の巖壑に入つて一字を削め、名づけ梅香院といひ、後寂をこゝに示した。
チクシヨウダニ 畜生谷 能美郡舊市、瀬

温泉からの白山登路中、別當坂・仙人窟などいふ地を越える時は、標高一九〇〇米から一九五〇米に至る間、左右の高地に挟まれた陰濕の地を畜生谷と名づけ、盛夏といへども殘雪を見る。
チクシヨウダニ 畜生谷 能美郡市瀬から別山に登る路で榎坂を過ぎる時は、畜生谷がある。標高一三五〇米に始り一五一五米に終る。

チクブジマ 竹生島 鹿島郡能登島なる鰹目部落の南方に在る島。
チクフジン 竹婦人 人持組多賀典膳の妻で、俳句を好んだ。『つれづれの草は枯れずや冬籠』などの詠がある。この句世に傳へて珈涼の作とするものは、竹婦人を紳婦人と誤るものである。
チゲンイン 智源院 大聖寺藩主第六代前田利精の子利純の法號。詳しくは智源院孤月秋天居士。
チコウ 智洪 ↓ムガイイチコウ 無涯智洪。
チコウイン 稚光院 加賀藩主第六代前田吉徳の男で早世した某の法號。
チコウイン 智光院 加賀藩主第十一代前田治脩の側室武村氏の法號。詳しくは智光院萬行爲足大姊。
チコウイン 智光院 大聖寺藩主第七代前田利物の子瓊姫の法號。詳しくは智光院眞珠宗照童女。

チゴジヨウヤマ 兒城山 江沼郡瀧原のうち牧に屬する。江沼志稿に、この村にある低い山であると記される。
チゴノミヤ 兒ノ宮 白山記に、白山御前嶺上の社のことを叙した次に『東有社。號』

兒宮。如意輪垂迹也。』とあるが、今はさうした社殿がない。同書にまた、『中宮。本地如意輪。垂迹如本宮。但童形歟。兒宮云々。但根本は如意輪、後二三所奉祀。』とあるから、中宮にも兒宮があつたと見える。
チザキ 千崎 江沼郡北濱に屬する部落。
チザン 智山 白山寺の惣學頭大法師で、白山宮莊嚴講中記録に見える承元三己巳結果分、藏人所繪師覺賢の白山神像についての建保三年二月の文、及び同年十一月廿五日白山莊嚴講衆等狀にその名がある。嘉祿三年九月廿日逝去。

チシキマイ 知識米 善知識に對して施入する初糶米のことである。加賀藩では、石動山天平寺が能登の國內毎戸から米三升を徴することを許され、越中射水郡では天平寺へ二升、二上山養老寺へ一升を寄進する例であつた。併し何れにしても小前の者はそれより少量を出すに止つてゐたらう。又往昔は吼木山法住寺が珠洲・鳳至二郡、一宮氣多神社が羽咋・鹿島二郡で知識米を勸進したが、法住寺は慶安三年寺領三十俵を得た時から之を廢し、氣多神社は慶長六年八月天平寺にその權利を譲り、寶池院が二郡内で元一宮知識米を勸進し、二升を大宮坊、一升を寶池院に收めることになつてゐた。↓ソウジヨウマハリ 僧正廻。
チセイイン 智清院 大聖寺藩主第二代前田利明の女で、水野中務少輔忠周夫人になつた松姫の法號。詳しくは智清院淨譽惠頓大姊。
チセン 智園 ↓ダイシツチセン 提室智園。
チセンイン 智仙院 加賀藩主第六代前田